

2012年度外国人留学生入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文 利用	実技 試験 作品 利用
日本画	与えられたモチーフに対する発想・表現力(構成・描写・色彩感覚)を求めた。	実技作品を踏まえ、制作意図を語らせると共に、本学志望理由を確認。小論文を参考に日本語の理解力を鑑みながら総合的に判断した。	●	●
油画	描く対象は椅子に座った女性モデル。服装やポーズをシンプルにすることで、空間や人体の構造に対する理解力がはっきり出るように出題した。また、対象がシンプルな分、描き手の想像力もためされたと考えた。描写力、想像力、独自性などを見て判断した。	日本に留学して美術を学ぶ必要性は何か。制作に対する意欲はあるか。入学してからの具体的な目標を持っているか。日本語によるコミュニケーション能力は十分か。それらを問総合的に見て採点した。また、小論文の写しと実技試験の作品を見て、それについての考えや意図を質問し、採点の判断材料のひとつとした。	●	●
版画	アスバラガス1本、ガラスのコップ1個を個々に配布し。「与えられたモチーフを自由に表現しなさい」という出題で鉛筆デッサンを行いました。質の異なる素材をどのように表現するか、その視点とモチーフの構成、描写技術などを考慮し採点しました。	小論文、持参したポートフォリオや作品を参考とし、面接を行いました。日本への留学理由、語学力、絵画の基礎技術や知識、意欲も兼ねて選考ポイントにしました。	●	×
彫刻	対象を的確に捉え、立体表現として必須のものを描写できるかの能力を審査する。	本学彫刻学科への志望の明確な理由を日本語でしっかりと述べられるかを審査する。実技作品と小論文を参考とした。	●	●
工芸	基礎的描写力をみにつけていること、描写することは目から脳、そして手により表わされる行為。その人の感動が伝わってくる作品となることを期待する。構図、立体認識、物質感、配色などを総合的に判断する。	なぜ本学の工芸学科を選びそして何を学びたいのか。将来の展望など熱意があり説得力のある答えが欲しい。実技試験を介し感想を話してもらうことで本人の制作姿勢を再認識したい。面接全般において、小論文を含めた中学業を達成することに必要な日本語能力があるかも含め判断をした。	●	●
グラフィックデザイン	[鉛筆デッサン] ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか [色彩構成] ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・造形力アイデアを明快でムダのない色彩と構成によって、美しく整理できているか ・完成度 手仕事としての仕上げが優れているか ・個性 品格、感性に優れているか	・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか	●	×
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×	×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力と描写力、及び色彩表現力を問うことをねらいとしてモチーフを白い植木鉢に入った観葉植物(アレカヤシ)にして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、正確な観察と独創的且つ調和的な構成がていねいにできているかを採点のポイントとした。	ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力と造形力を有してかどうかを問うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を明確に説明できるかどうかを問うことをねらいとして面接試験を実施。また、共通教育の小論文は日本語の記述力、表現力を見るために参考にした。	●	×
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	本学科の授業を理解できるだけの日本語能力があるか。日本で、また本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。	×	●
情報デザイン :メディア 芸術 コース	出題テーマとなった地図や地球儀でない「未来の地球」は、なにか特定の具体的な対象を指し示すというよりも、抽象的な概念であり、客観的な正解があるわけではない。そうした問いに対して、大胆かつ創造的に取り組んでいく能力と、テーマを視覚化したときの演出力や描写力、表現のバランスなどを総合的に評価した。	主に、以下の項目について面接試験および評価を行った。 ・美術大学、特に情報芸術コースの1年次のカリキュラムに必要な、美術/デザインに関する基礎的な知識やスキル ・母国の文化芸術に関する関心や知識 ・日本、特に本学で美術/デザインを学びたいという動機と熱意 ・日本語でのコミュニケーション能力(日本語を取得しようという気持)		
情報デザイン :情報 デザイン コース	1、発見・観察 デバイスメディアにかかわる体験を発見する 2、構成 その要素を限定したかたちを用いて再構成する 3、表現 体験を伝えるよう表現できているのか 以上の3点を確認、評価することが出題の意図であり採点のポイントである。	・一般入試の学生と遜色ない描写力、表現力を持っているか ・情報デザインに対する適性はあるのか ・専門講義科目を理解する学力は備わっているか	●	●
芸術	日本語の習熟度だけでなく思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激となります。面接試験では、直接本人と会って、日本語能力が十分であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定します。	×	×

全学科共通小論文

留学の目的と展望が明確に持っているか。
採点のポイントは、正しい日本語が書けているか。何を学びたいのか。広い視野からの視点を持っているか。具体的に書けているか。